

「こども病院移転計画調査委員会」のマル秘資料問題



市当局がシナリオを作って議論を誘導!?

こども病院の人工島移転計画の「再検証」を行う調査委員会の第1回会議が1月30日に開かれましたが、市の担当事務局が患者家族代表の委員と開業医の委員、市民委員の計4人を除く委員に対して会議進行の手順や議論の留意点などを記した「マル秘」文書を事前に手渡していたことが発覚しました。

市当局が調査委員会の議論のシナリオを勝手に書いて根回ししたもので、絶対に許されないことです。市民からは「またか」と不信の声があがっています。

そもそもこの調査委員会は、高島市長が公約に基づいて「第三者機関」として設けたもの。市当局が議論に介入したり、都合の良いように誘導したりすることがあってはなりません。調査委員会の民主的運営を尊重し、透明で客観的な議論をしっかりと保障すべきです。

マル秘資料には「病院機能、経営形態などに議論が広がらないよう留意」「現地建て替えの新たな見積もりを提示(保健福祉局)」「全会一致の結論になることが望ましいが、一部の反対者が自説を曲げない場合は、各論併記となることもやむをえない。ただし、その場合、多数意見がどれかわかるように集約」などと書かれています。

市民参加の「再検証」に期待

調査委員会には患者家族や開業医、市民委員が加わり、会議がインターネットでも公開されています。日本共産党が昨年12月議会でも要求していました。



透明で客観的な調査を 高島市長に緊急申し入れ

日本共産党福岡市議団は2月4日、福岡市の高島市長あての「こども病院移転計画調査委員会の透明で客観的な議論を保障することを求める申し入れ」を行いました。対応した市長室長、担当部長に対し、文書による回答を求めました。



左から、宮本秀国団長、中山いくみ幹事長、星野みえ子市議、ひえじま俊和市議、倉元たつお市議、熊谷あつ子市議

日本共産党福岡市議団